

論文要旨

氏名	前田 亨
タイトル (日英併記)	Efficacy of electric-powered cleaning instruments in edentulous patients with implant-supported full-arch fixed prostheses: a crossover design (インプラント支持固定性補綴装置を装着した無歯顎患者における電動清掃器具の有効性に関する調査/クロスオーバー試験)
論文の要旨 (日本語で記載)	
<p>口腔内の清掃はインプラント治療の長期安定や生物学的な合併症の予防に重要である。インプラント支持固定性補綴装置は無歯顎患者において広く適応され、良好な成功率とQOLの改善が報告されている。しかし補綴装置の基底面は歯槽粘膜と緊密に接触しているため、可綴性補綴装置と比較してプラーク除去が困難であることが報告されている。プラークはインプラント周囲粘膜疾患と密接に関連していることから、最適な清掃方法の検討が必要であると考えられる。そこで本研究では上顎無歯顎患者に対するインプラント支持固定性補綴装置の基底面に焦点を当て、各種清掃器具の清掃効果を検討することを目的とした。</p> <p>被験者は九州歯科大学附属病院口腔インプラント科に来院した平均 68.0 ± 2.7 歳 (55-81歳) の上顎無歯顎を呈する患者 9 名で、電動歯ブラシ (Sonicare Diamond Clean[®]; SD 群または Oral-B Professional Care Smart Series 5000[®]; OralB 群)、電動デンタルフロス (Air Floss[®]; AF 群) および手用歯ブラシ (Tuft24[®] MS; Control 群) をそれぞれ 5 分間使用し、2 週間のウォッシュアウト期間を設けたクロスオーバー比較試験を用いて各清掃器具の清掃効果を検討した。基底面におけるプラークを清掃前後に染色することでプラーク除去率を評価し、さらに頬側と口蓋側に分けてそれぞれ評価した。</p> <p>その結果、プラーク除去率は Control 群、SD 群、OralB 群および AF 群でそれぞれ $53.5 \pm 8.5\%$、$70.9 \pm 6.5\%$、$75.4 \pm 6.3\%$ および $74.4 \pm 4.2\%$ であった。また被験者を手用歯ブラシのプラーク除去効率に基づいて清掃技能良好群 (n=4) と清掃技能不良群 (n=5) に分けたところ、清掃技能不良群では電動歯ブラシによるプラーク除去率の有意な改善が認められた ($P < 0.05$)。頬側と口蓋側にプラークエリアを分割した場合、頬側ではプラーク除去率が Control 群、SD 群、OralB 群および AF 群でそれぞれ $52.8 \pm 7.9\%$、$70.1 \pm 7.3\%$、$77.7 \pm 6.5\%$ および $79.5 \pm 3.7\%$ であり、SD 群と OralB 群において Control 群よりも有意にプラーク除去率が高かった ($P < 0.05$)。一方、口蓋側のプラーク除去率は各清掃器具間で有意差は認められなかった。</p> <p>インプラント支持固定性補綴装置の基底面のプラーク除去において電動歯ブラシは手用歯ブラシよりも良好な結果を示し、特に手用歯ブラシの清掃技能が不良な被験者においてその傾向は顕著であったことから、インプラント支持固定性補綴装置を有する患者においては家庭での電動歯ブラシ使用が推奨される可能性が示唆された。一方、口蓋側は頬側と比較してプラークの付着がより多く、またプラーク除去が困難であったことから、インプラント支持固定性補綴装置を装着した患者では特に口蓋側に留意した清掃指導が必要であることが示唆された。</p>	